

1 単元名 民主政治と政治参加

2 本単元の目標

- (1) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。
- (2) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- (3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 知②国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 知③地方自治の基本的な考え方について理解するとともに、その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	思①対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	態①民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領社会科公民的分野(6)C(2)「民主政治と政治参加」を受けて、設定した。本単元では、現代社会の見方・考え方を働かせて、課題を追究したり解決したりする活動を通して、個人の尊重と法の支配、民主主義など、法に基づく民主政治の基本となる考え方に関する理解を基に、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙などの国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現することができることをねらいとしている。また、2006年に「18歳選挙権」が実現したことを踏まえ、選挙権をはじめとする政治に参加する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚や、主権者として、よりよい社会の実現を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うようにしたい。

(2) 生徒観

主権者として、よりよい社会の実現を視野に主体的に社会に関わろうとする態度について、実態調査(令和5年9月5日実施、第3学年*組*人)を行った。「将来、私が社会へ参加することにより、変えてほしい社会現象が少し変えられるかと思いますが。」というアンケート調査に対して、肯定的な答えをした生徒は*人であった。また、中学校第3学年「私たちが生きる現代社会と文化の特色」の学習後に行った振り返りの記述を見ると、よりよい社会にするためにどのように社会に参加していけばよいか具体的に記述できた生徒は、*人であった。これらの結果から、約半数の生徒が、将来の社会参加に対する否定的な印象をもち、約7割の生徒は、社会参加への具

体的なイメージがもてていないことが明らかになった。このことから、学習した内容を実社会とつなげ、現代社会に見られる課題の解決を視野に具体的な解決策を見いだそうとする学習指導に課題があることが分かった。

(3) 指導観

本単元の学習では、生徒一人一人に、主権者として、よりよい社会の実現を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うために、社会的な見方・考え方を働かせながら、生徒一人一人が問い続け、新たな問いを見いだす単元計画の工夫を行う。具体的には、単元を貫く問いを設定した課題解決的な学習の中に、生徒一人一人が、単元の学習を振り返り、実社会につなげる新たな問いを見いだす「課題発見」の場を設け、課題解決的な学習を連鎖的に繰り返す。また、「主権者として」の視点から、社会科と学級活動(1)との関連を図っていく。学級活動(1)の話し合い活動で育まれる社会参画のために必要な資質・能力を基盤として、内容や手立てを関連付けながら、社会科の授業を行うことで、身近な社会の課題を見だし、よりよく解決するため、話し合って合意形成を図り、主題に迫ることができる考える。その際、社会科と学級活動(1)を関連付ける振り返りカードの工夫をすることで、学級活動(1)の実践を生かして新たな問いを見いだすことにつなげていきたい。これらの学習では、1人1台の学習用端末をはじめ、ICTの効果的な活用をする。このような授業デザインを工夫を通して、主権者として、よりよい社会の実現を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養えるようにしていきたい。

5 単元の指導計画 (16 時間扱い)

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習活動・内容	知	思	主	評価方法・留意点等※学級活動(1)との関連
1	1	「18歳のわたしへ」メッセージを書く。 - 選挙で投票するときに、どんなことに気を付けているのだろうか。 3人の歴史上の人物(ルイ14世、リンカン、伊藤博文)を対象に、模擬選挙をする。 - 日本の政治や今の学級・学校の課題を出し合う。 - 単元を貫く学習課題を設定する。 - よりよい社会にするために、どのように政治に参加すべきなのだろうか。 - 単元を貫く学習課題の予想を立てる。 - 本時の振り返りをする。				18歳になるとできることを想起し、メッセージを書くことで、未来の自分や社会への見通しをもてるようにする。 - 歴史上の人物を取り上げることで、歴史的分野とのつながりをもたせ、既習事項を活用して考えることができるようにする。 - 日本の政治の課題と学級・学校の課題をつなげることで、政治上の課題を自分事として捉えることができるようにする。 - ICT端末(Jamboard)を活用して、生徒一人一人の多様な意見を引き出す。 - 態①: 予想を書いているかどうかを見取り、書けていない生徒には、本時の内容を振り返って記述するよう助言をする。【スタディ・ログ】 - 振り返りは、ICT端末を活用し、学びの足跡をスタディ・ログとして残していく。
(中 略)						
2	5	- 選挙シュミレーションを行い、日本の選挙の仕組みの特色について確認する。 - 小単元①の学習課題を確認する。 - よりよい社会を実現していくために、政治への参加が求められているのはなぜだろうか。 - 国民の「政治参加がなかったら…」を考える。 - 小単元①の学習課題について、自分の考えをまとめる。 (例) よりよい社会を実現するためには、国民の意見を多く政治に反映することが重要であり、そのために、一人一人の国民の政治参加が大切になっている。 - 小単元①の学習を通して見いだした新たな問いを書く。				- 国の選挙の仕組みを確認するとともに、国民の意見が広く反映できるような仕組みになっていることを確認する。 - 政治参加のない社会を考える活動を通して、民主政治を推進する上で国民が政治参加することの大切さに気付かせたい。 - 生徒会選挙や学級のレクリエーションの例と比べることで、政治参加の大切さを自分事として捉えることができるようにする。 - 思①: 小単元①の学習課題に対する自分の考えを書いているかを見取り、書けていない生徒には、スタディ・ログや本時の話し合いを参考にして、自分の考えを書くように助言する。【スタディ・ログ】 - 態①: 新たな問いを見いだしているかを見取り、見いだしていない生徒には、スタディ・ログを見て学習したことを参考にしよう助言する。【スタディ・ログ】
(中 略)						
3	10	- 日本の三権分立の仕組みを図にまとめる。 - 小単元②の学習課題を確認する。 - 三権の分立が保たれていることは、よりよい社会を実現するために、どのような意味があるのだろうか。				- 国会、内閣、裁判所の関係を図にまとめることで、日本の三権分立の仕組みを確認し、本時の学習への見通しをもてるようにする。 - 絶対王政時代のフランスやナチス・ドイツと現代の日本の政治の仕組みや様子を比較することで、民主政治の推進における三権分立の重要性を考えることができるようする。

		- 三権が分立していない社会と現代の日本を比較し、民主政治における三権分立の重要性を考える。 - 小単元②の学習課題について、自分の考えをまとめる。 (例) 三権の分立が保たれていることは、国民の権利や自由を守ることにつながり、よりよい社会を実現するために大切である。 - 小単元②の学習を通して見いだした新たな問いを書く。		○	ICT端末(padlet)を使い、効率的に意見を出し合い、自分の意見と他者の意見を比較・検討できるようにする。 思①：小単元②の学習課題に対する自分の考えを書いているかを見取り、書けていない生徒には、スタディ・ログや本時の話し合いを参考にして、自分の考えを書くように助言する。 【スタディ・ログ】 ○ 態①：新たな問いを見いだしているかを見取り、見いだしていない生徒には、スタディ・ログを活用して学習したことを参考にするよう助言する。 【スタディ・ログ】
4	11	私たちが住んでいる地域の政治は、どのような仕組みで行われているのだろうか。 - 地方自治とはどのような考え方なのかを知る。 - 地方分権によって、変化していることは何か調べる。 私たちが住んでいる地域の政治は、地方自治とよばれ、住民が行う。近年では、地方分権が進み、住民が地域の政治に取り組む機会が増えている。 - 本時の振り返りをする。		○	「地方自治は民主主義の学校」という言葉から、地方自治の特色についての見通しをもてるようにする。 - 地方分権一括法の内容を確認し、近年の地方自治の変化を捉えることができるようにする。 知③：地方自治や地方分権の考え方を理解しているかを見取り、理解できていない生徒には、具体例から地方分権が進むことによる変化を捉えることができるようにする。 【観察、ノート】 - 本時の振り返りをICT端末を使って行い、スタディ・ログとして残す。
	12	茨城県は、どのような仕事を行っているのだろうか。 - 地方自治体が行う行政サービスについて確認する。 - 地方自治体の政治のしくみを調べる。 茨城県などの地方自治体は、予算や条例を作ったり、行政サービスをしたります。 - 本時の振り返りをする。		○	- 地方自治体が行う主な仕事を写真から捉えることができるようにする。 - 国の政治の仕組みと比較して、二元代表制の仕組みを理解できるようにする。 知③：地方自治のしくみを理解しているかを見取り、理解していない生徒には、国の政治の仕組みとの違いを示した図から捉えるようにする。 【観察、ノート】 - 本時の振り返りをICT端末を使って行い、スタディ・ログとして残す。
	13	茨城県の財政は、どのような状況にあるのだろうか。 - 茨城県の歳入と歳出から、地方財政の現状を確認する。 - 地方財政の課題とその解決策について考える。 茨城県は、税金だけでなく地方交付税や国庫支出金などの歳入がある。また、地方債の発行残高が残り、将来返済する必要があるという課題がある。 - 本時の振り返りをする。		○	「茨城県の歳入と歳出」のグラフから、本件の財政状況の現状を捉え、地方債を発行していることに気付くようにする。 知③：地方債が増え続けると、どんな課題があるかを理解しているかを見取り、理解していない生徒には、地方債が借金であることを確認し、将来の自分との関わりから捉えられるようにする。 【観察、ノート】 - 本時の振り返りをICT端末を使って行い、スタディ・ログとして残す。
	14	2023年の都道府県別魅力度ランキングを確認する。 - 小単元③の学習課題を確認する。 よりよい茨城県にするために、知事にどのような声を届ければよいのだろうか。 - 本県の課題を見だし、その解決策を話し合う。 - 小単元③のまとめをする。 (例) よりよい茨城県にするために、魅力的な観光地や特産品を増やすような取り組みをしていくべきだという声を届けたほうがよい。 - 小単元③の学習を通して見いだした新たな問いを書く。		○	- 本県が魅力度ランキングの47位であることを確認し、本県の魅力を向上するにはどんな方法があるのか考えようとするきっかけとする。 - 解決策を考える際には、ウェビングを活用し、自分の考えをもてるようにする。 - 本県の課題の解決策を考え、話し合う中で、合意形成や社会参画を視野に入れた話し合い活動になるように助言する。 思①：小単元③の学習課題に対する自分の考えを書いているかを見取り、書けていない生徒は、スタディ・ログや本時の話し合いを参考にするように助言する。 【スタディ・ログ】 ○ 態①：新たな問いを見いだしているかを見取り、見いだしていない生徒には、スタディ・ログを見て学習したことを参考にするよう助言する。 【スタディ・ログ】
5	15	- 本時の学習課題を確認する。 単元の学習を振り返り、単元を貫く学習課題について、自分の考えをまとめよう。 - 自分が知事選に立候補する時の政権公約をまとめる。 - 単元振り返りシートを活用して、単元の学習を振り返る。			- スタディ・ログを基に、単元の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 - 単元の学習を生かして、茨城県議会選挙の政権公約を考えることで、立候補者の立場から、課題について考えることができるようにする。 - 単元振り返りシートは、ICT端末(Jambord)を活用して、「分かったこと」「疑問点」「もっと調べたいこと」「学級活動との関連」の視点から、付箋紙に意見を書き出すように助言する。

		・将来取り組んでみたい政治参加の方法を考え、話し合う。 ・単元を貫く学習課題について、自分の考えをまとめる。 (例) よりよい社会にするために、選挙に行き投票することが大切である。投票する時は、政権公約にも着目して投票したい。 ・本時の振り返りをする。		◎	・ピラミッドランキングを活用することで、より活発な話し合いになるようにする。 思①：学習課題について、本単元で学習したことを基に考察し、自分の考えを書いている。 【ワークシート、スタディ・ログ】 ・本時の振り返りをワークシートに行い、自分の学びを確認できるようにする。
6	16	・単元の学習を振り返る。 ・本時の学習課題を確認する。 単元の学習を振り返り、「新たな問い」を見いだそう。 ・単元の学習で生まれた疑問点やもっと調べたいことを共有し、話し合い、新たな問いを見いだす。 ・生徒一人一人が見いだした新たな問いについて話し合う。 ・話し合ったことを基に、自分が見いだした新たな問いと問いを設定した理由をまとめる。 (例) 日本では、期日前投票などの工夫がされているのになぜ、投票率が低い課題が残っているのだろうか。 ・本単元の学習の振り返りをする。 ・「18歳のわたしへ」メッセージを書く。		◎	・ICT端末を活用し、スタディ・ログや学級活動(1)の振り返りや単元振り返りシートなどを使って、これまでの学習を振り返る。 ・ICT端末(padlet)を使って、意見を、比較、分類し、思考が深まるようにする。 ・学級活動(1)の実践も踏まえて、新たな問いを考えるように助言する。 ・新たな問いは「よりよい社会につながるものか」「現代の課題に合っているか」「自分と関わるものか」の視点で見いだしたり、吟味したりする。 態①：学習したことを基に、新たな問いを見だし、その社会的意義について考えようとしている。 【授業中の発言、スタディ・ログ】 ・理由は、「よりよい」のキーワードを使うよう条件付けることで、よりよい社会の実現を視野に入れながら、新たな問いの社会的意義を見いだすようにする。 ・ICT端末(Forms)を活用し、社会科と学級活動(1)との関連についても振り返るようにする。 ・最後にメッセージを書くことで、今後の政治参加について見通しをもてるようにするとともに、単元の学習を余韻をもたせて終わるようにする。

学級活動(1)「学校生活の主体者としての自覚をもとう」

時間	学習活動・内容	評価方法・留意点等 ※社会科との関連
事前	・各委員会の取り組みと現状の課題を確認する。 ・学校生活向上のために委員会として取り組む活動を考える。	・議題の設定後、生徒の思いを聞きながら、提案理由と話し合いの柱立てを検討する。 ・活動の振り返りは、委員会ごとにICT端末(スライド)にまとめるようにする。
本時	・本時の議題を確認する。 よりよい学校生活をつくるため、課題を見だし、改善策を考えよう ・議題の提案理由と本時の話し合いの流れを確認する。 ・各委員会の取組について、良い点と課題点を発表する。 ・出された意見を基に全体の課題を見いだす。 (グループ→全体) ・全体の課題に対して改善策を考える。 (個人→グループ) ・全体の課題に対してよりよい改善策を話し合う。 ・本時の振り返りを行い、教師の話聞く。	・学級活動委員の紹介を行い、本時の話し合いへの雰囲気を高める。 ・提案理由は、学級や学校の目標によりどこを求められるよう助言する。 ◎互いの意見や可能性を生かし合うことの大切さを理解し、話し合い活動の仕方を身に付けている。 (よりよい社会を築くための知識・技能) 【学級活動ノート、観察】 ・最初に、委員会の良い点を発表し合うことで、活動意欲を高め、生徒の自己有用感を高めたい。 ・必要に応じて、形態の工夫を取り入れるなど、助言をする。 ・学級活動ノートにウェビングを活用して自分の意見をまとめるようにする。 ◎よりよい委員会になるための改善策を考え、合意形成に向けて自分の意見を述べている。 (集団や社会の形成者としての思考・判断・表現) 【学級活動ノート、観察】 ・改善策を「取り組みやすい」「効果あり」の視点から考え、合意形成を図るようにする。 ・教師の話では、「合意形成」や「社会参画」「少数意見の尊重」などに触れ、実践への活動意欲を高めることができるようにする。
事後	・委員会活動コーナーを設け、本時で決めた改善策を実施する。 ・各委員会の取組状況を確認する。	・話し合ったことを実践する活動を通して、民主主義の考え方を自分事として捉え、実感できるようにする。 ◎決まったことを基に、学級や学校の目標を意識して、委員会活動コーナーの掲示物の作成に取り組んでいる。 (主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度) 【作成したポスター、観察】